

明治40年の創業以来、  
最大タンナーとして日本の皮革業界に  
100余年貢献してきたニッピの技術・ノウハウと、  
明治43年以来、  
革一筋で築き上げてきた旧藤田商店の  
豊富な顧客と仕入ソース。  
ニッピ・フジタは、それぞれの持ち味を活かした  
ハイブリット・カンパニーである。

**TLF**  
TOKYO LEATHER FAIR

Interview,5

株式会社ニッピ・フジタ 森脇 淳

今期、注目の商品は何でしょうか？

馬の革ですね。国産の馬革を手塗りで加工しています。



ジャパンレザーの魅力はどんなところだと思いますか？

ジャパンレザーの良いところは、品質を均一に保つことができることだと思います。これをどう生かしていくかが重要ですね。

では、その良さを発信していく為にはどうしたらよいと思いますか？

その均一の品質というのは、問題を起こさない為の品質保持ですので、それが良い時もあれば、画一的になりすぎて面白味がないという風にも感じられます。今後、タンナーとメーカーがタッグを組んで、今までにないことができればいいなとは思っています。

レザー業界に今後求められる事は何でしょうか？

日本には良い職人がいますから、国産力（技術）を生かして、冒険していくことも大切じゃないですかね。その為には、メーカーとのコミュニケーションも大切ですが、間違いなく新しいことが生まれると思います。コストダウンも大切ですが、高品質なものに価値を感じて頂けるような提案をしていきたいと思っています。